

## 第6部 推進体制

県は、この計画の文化芸術振興施策の着実な推進に向けて、様々な主体と次のように総合的に連携・協働を進めます。

### 1 市町村

市町村は、住民に最も身近な基礎的な自治体として、地域における文化芸術活動の支援、伝統芸能や文化財の保存・継承にかかわる取組みを推進していくことが期待されます。

県と市町村は、文化芸術にかかわる現状や住民ニーズ、文化行政に影響を及ぼす可能性のある動向等を相互に把握し、情報交換に努め、それぞれの役割を踏まえたと連携・協力関係を築いていく必要があります。

また、県は、広域自治体として、市町村の意向を踏まえ、文化芸術活動の推進に必要な支援を行うとともに、県域の均衡ある文化芸術の振興に留意する必要があります。

### 2 芸術家及び文化芸術を支える活動を行う者

芸術家及び文化芸術を支える活動を行う者は、文化芸術の担い手であり、人々に感動や生きる喜びをもたらすこと、また、文化芸術の創り手（芸術家）と受け手（県民）をつなぐことが期待されます。

県は、芸術家及び文化芸術を支える活動を行う者と協働し、県民に文化芸術に親しむ機会を提供していきます。また、芸術家及び文化芸術を支える活動を行う者が、心豊かな社会の実現に大きな役割を果たすという認識の下、優れた才能の発掘や育成のため、環境の整備に取り組みます。

### 3 文化芸術団体

文化芸術団体は、自発的な文化芸術活動の主体として、地域の文化芸術振興の担い手となることが期待されます。

昨今、文化のもつ力を文化以外の分野に活用することが注目されており、文化芸術団体は、地域の文化施設や学校等の教育施設、社会福祉施設等と積極的に連携することが望まれます。

また、文化芸術団体は、地域の文化的ニーズや活動に関する情報を有していることから、県民に対して積極的な情報発信を行い、県民の文化芸術活動への参加意欲を促進していく活動なども期待されます。

県は、文化芸術団体と協働し、県民の文化的ニーズに応える事業や子どもたちが文化芸術に親しむ機会を充実させます。

### 4 学校

学校は、子どもたちが学ぶ場であるとともに、人間性や感性をはぐくむ場でもあります。学校教育において、子どもたちが文化芸術の体験機会を得ることで、自己の感性を磨き、他者と共感する心をはぐくむことにより、豊かな人間性を身に付けていくことが期待されます。

また、大学は、教育・研究機関として、多くの人材や研究成果、施設を有していることから、地域の文化芸術振興の中心的な担い手として、文化芸術活動への助言・提案や情報提供を行うなどの役割が期待されます。

県は、学校教育の中で子どもたちが文化芸術を鑑賞し、体験することができるよう、芸術家等や文化芸術団体、文化施設等と連携・協力し、取り組んでいく必要があります。

また、大学や文化施設等とも連携し、文化芸術にかかわる人材の育成に取り組む方策を検討します。

### 5 事業者

企業は、社会的責任から文化芸術活動への支援をとおして、文化芸術振興を担っていくことが期待さ

れます。メセナの実施では、資金の支援だけでなく、企業等がもつ技術やサービス等の経営資源も活用されています。

県は、企業や個人の寄附を促進する公益社団法人企業メセナ協議会の「助成認定制度」の相談窓口となっている公益財団法人神奈川芸術文化財団をとおして、その周知や積極的な活用を促進します。また、芸術家への支援に関心を持つ企業と芸術家とをつなぐ仕組みなどについても検討します。

## 6 国及び他都道府県

県は、基本法や文化芸術の振興に関する基本的な方針の趣旨を踏まえるとともに、文化庁が主催する連絡会議や文化芸術懇談会などをとおして示される文化芸術振興に関する国の方針などを参考に取り組んでいきます。

また、国や関係機関が実施する助成事業等について、市町村や文化芸術団体に円滑に情報提供を行い、地域における特色ある文化芸術活動や子どもたちの文化芸術体験活動が推進されるよう努めます。

他の都道府県とは、連絡会議等の情報交換の機会を積極的に活用し、新たな取組み、特色ある取組みの情報収集に努め、必要に応じて県内での取組みに活用するとともに、文化芸術を介した地域間交流などについても、積極的に実施していきます。